



ふくしの泉

2007

5/1

第54号

発行 ■ 社会福祉法人 豊橋市福祉事業会 TEL (0532) 62-0018 〒440-0845 豊橋市高師町字北原1番地104

● 題字 初代理事長・磯村弥八



【カバーフォト&エッセー】

「おはなし、おはなし」

「うん、うん」

「うんとね、うんとね、かばのおとうさんがね」

「うん、うん」

今年も、こんなこどもたちの声が聞こえてきそうな
優しい春がやってきました。

豊橋あゆみ学園



理事長 磯村 直英

さらなるサービスの質の高さを めざす人間力を

本年度事業にあたっては、社会福祉法の基本理念に立ち返り、環境変化やニーズに対応した高いレベルのサービスを提供できる社会福祉法人として、活力ある運営を行ってまいります。

何よりも本会にとって大きな変化は、昨年4月施行の障害者自立支援法です。身体、知的、精神の3障害についての一元的サービス提供の仕組みが導入され、障害をもっている地域で安心して自立した生活を可能にするための抜本的な改革です。特に、本会の豊橋あゆみ学園など、児童関係施設には、障害児とはいえ、利用者の方には利用料の定率負担や食費等の負担が求められ、施設には報酬の日割化等、施設経営上、対応すべき課題も多くでています。障害分野の制度大変革に限らず、児童分野でも超少子化社会の中での次世代育成の視点からの幼保一元化の流れや後を絶たない児童虐待への対応など、新たなサービス機能やセーフティネットとしての施設の役割強化が求められています。

このような時期だからこそ、本会の理念に沿い、赤ちゃんからお年寄り、そして障害をもった人が、一人ひとり活き活きと生活できるように支援を行うとともに、各種相談や家庭の事情などに応じた適切なサービスを提供し、地域福祉の拠点としての事業に積極的に取り組み、利用者本位の良質なサービス提供により、選ばれる施設を目指していきたくと考えています。選ばれるためには、施設、法人がと言うより、何よりも、利用者に接する職員の資質が重要です。サービスの質の向上には、質の高い「人間力」つまり「能力」「やる気」「人間性」の3要素が問われます。各要素のかけ算で現される人間性は、ゼロやマイナスでは困ります。特に、人間性がマイナスになると、能力、やる気も悪い方向に働き、利用者を支援する仕事では致命的です。

そこで、今年度からサービスの担い手である職員一人ひとりの人間力を高め、人材化していくためと、福祉環境変化に的確に対応できる組織活性強化を目指し、外部専門機関を活用し、人事評価や給与制度と共に職務組織の明確化などトータルな人事制度の構築を図ったところです。「質の高いサービス」を担う実践者として、また、法人、施設の理念や価値観に裏打ちされた熱意、そして、組織人としての職責を明確化して、「一生懸命」に働くだけでなく、中長期のビジョンをもち、当面のゴール「努力の焦点」を設定して業務に取り組むことができ、目標管理のできる職員育成に意を注いでいきます。

これらを通じ、福祉環境の変化に柔軟、的確に対応し、施設における利用者本位のサービス提供はもとより、地域における自立生活支援の充実や新たなニーズに応え、公共性の高い法人として、職員の間力を結集して一層地域社会に貢献してまいります。皆様方の益々のご支援をよろしく願いいたします。

苦情解決第三者委員

加藤 鈴木 三善
藤邊 敬三
和司 善雄

評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	監事	監事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	常務理事	理事長
大塚 雅久	前田 勝利	豊田 浩昌	白井 孝昌	田邊 敬善	竹下 勝治	加藤 章	小藤 美子	安藤 量次	高野 治男	小杉 健次	福井 修平	鈴木 三雄	市川 太郎	木村 哲雄	木村 昭広	三井 治郎	中尾 眞次	牧野 邦康	河合 元彦	佐藤 初彦	大沢 久	内藤 公久	磯村 直英		

平成19年度役員・評議員

ご寄付

財団法人

中央競馬馬主社会福祉財団様
社団法人

中京馬主協会様より寄付をいただき、マイクロバスを新たに購入することができました。ありがとうございました。

豊橋若草育成園



(株)立岩様

より、乗用車（豊橋ちぎり寮）、エアコン（岩西授産所）、トリップ・トラップチェア（豊橋ゆたか学園）、デジタルハイビジョンテレビ（豊橋にしぐち学園）、子ども用ロッカー（豊橋あゆみ学園）、各種机・椅子などをいただきました。ありがとうございました。

がとうございました。

ボランティアの声



若川京子

私は、くすのき学園で幼児の遊びのボランティアがあるのを知り、一昨年の三月頃まで同園のボランティアをしていました。その時の園長先生だった河合先生がにしぐち学園に変わられていて、ある日の電話で「にしぐち学園に芸術クラブがあるので教えてもらえないか?」と言われました。「私にできるかな?」と思いつつ引き受けました。はじめは少し緊張気味でしたが、どんな風にしたら良いかなと思いつつ、いろいろな絵を試したところ、にしぐち学園の利用者さんにはちぎり絵が一番向いているかなと思いました。毎週木曜日に季節や行事に合わせて、いろいろな色紙を使って、利用者さんたちちぎり絵を楽しんでいただいています。これからも楽しんでボランティアを続けていき、にしぐち学園のおまつりやいろいろな催しにも絵の発表をして、みなさんに絵の楽しさを伝えられたらなあ...と思います。

豊橋市福祉事業会

豊橋市福祉事業会は、乳児から児童、障害者、老人まで
広範な福祉施設を営み地域社会に貢献しています

児童福祉

乳児院 豊橋ひかり乳児院 49

児童養護施設 豊橋若草育成園 90

保育所 岩西保育園 200

肢体不自由児通園施設 豊橋あゆみ学園 40

児童デイサービス事業所 豊橋くすのき学園 25

障害児短期療育事業所 つつじ教室 60

知的障害児施設 豊橋ゆたか学園 40

知的障害者保護施設（通所更生） 豊橋ちぎり寮 70

知的障害者生活介護事業 あいあいホーム 12

知的障害者生活介護事業 いきいきホーム 14

知的障害者生活介護事業 てんぱくホーム 5

知的障害者保護施設（通所更生） 豊橋にしぐち学園 34

知的障害者保護施設（通所授産） 岩西授産所 33

軽費老人ホーム ケアハウスかなだ 30

障害児福祉

障害者福祉

老人福祉

豊橋市高師町字北原1-104
TEL62-0019 FAX64-7535
E-mail: hikari@tf-jigyokai.org

豊橋市高師町字北原1-104
TEL62-0010 FAX62-0226
E-mail: wakakusa@tf-jigyokai.org

豊橋市高師町字北原1-104
TEL62-0111 FAX64-1396
E-mail: hoikuen@tf-jigyokai.org

豊橋市高師町字北原1-104
TEL63-5031 FAX63-5031
E-mail: ayumi@tf-jigyokai.org

豊橋市高師町字北原1-103
TEL61-8273 FAX61-8273
E-mail: kusunoki@tf-jigyokai.org

豊橋市松葉町三丁H8-3
TEL52-2957 FAX52-2957

豊橋市高師町字北原1-104
TEL62-0112 FAX66-0986
E-mail: yutaka@tf-jigyokai.org

豊橋市高師町字北原1-107
TEL61-0117 FAX66-0371
E-mail: chigiri@tf-jigyokai.org

E-mail: aiiai@tf-jigyokai.org

E-mail: ikiki@tf-jigyokai.org

E-mail: tenpaku@tf-jigyokai.org

豊橋市高師町字北原1-103
TEL64-3596 FAX64-3596
E-mail: nishiguchi@tf-jigyokai.org

豊橋市高師町字北原1-107
TEL62-0118 FAX62-0118
E-mail: jusanjo@tf-jigyokai.org

豊橋市石巻町字数下1-1
TEL88-5700 FAX88-5701
E-mail: kanada@tf-jigyokai.org

かずおメンタル クリニックス 大瀧先生に聞く

プロフィール

大瀧和男（おおたき かずお）
昭和58年、北海道大学医学部卒業。
浜松医大精神神経科、国立小諸療養所、
鳥田市民病院精神神経科、医療法人和合
会和合病院副院長、医療法人義興会可知
病院副院長を歴任。
平成15年1月、豊橋市西幸町にて
心療内科・神経科かずおメンタルクリニ
ックス開業。
専門は、児童青年期精神医学。
訳書として、「子どもの臨床面接」
（フィリップ・パーカー著 金剛出版）



富澤 さっそくですが、いじ
めの問題についてお聞きでき
たらと思います。

「でも先生たちもいじめと
認定できないようなことが多
いんです。」

先生 いじめに関しては、コ

富澤 そうですね。

ミュニケーション不足がベ
スにあるかなと思いますね。
たとえば、親密の度合いを増
したいと思って少しからかっ
ているのに、一方はそれを冗
談ととらずにバカにされた、
非難されたと受け取り、それ
が積み重なって疑心暗鬼にな
る。ひと言ひと言を全部とげ

先生 それをいじめつてひと
くくりするものですから、親
ごさんが重大視して、過大に
動いて問題が大きくなり、か
えて浮いてしまうというケ
ースもあります。

のように聞いてしまう。調べ

富澤 コミュニケーションが
うまくとれるようにというこ
とですか？

先生 一つは家庭で十分なコ

ミュニケーションが取れてい
ないんじゃないかという気が
するんですね。同じテレビを
見てるんだけど、会話はして
いないとか、いつしよにいる
からコミュニケーションして
ますよっていうが、会話をし
に進んでいくことが多いので
は。遠足があるとき、「遠足
でしようっ」「いっくらっ」「ど
うっ」「○○円もってっ」と
いう具合ですね。

また、コミュニケーション
は世代、世代で伝えられてい
くものですが、お話をうかが
うと、祖父母とあまりコミュ
ニケーションがとれてなかつ
たというのがありますね。い
つも悠長にやることはできな
いでしようが、ときにはじっ
くり話す時間をもつことかな
と思います。

をあげてしまう、このままだ
と新聞ざたになりそうでこわ
いんです。と。話を聞くと、
子どもを産んでからどうして
いいのか分からない。普通は
実家を頼りますが、その実家
とうまくいってない。おじい
ちゃん、おばあちゃんも淡白
で、お孫さんとあまり関わり
ないのを見ていて、自分の小
さいころをフラッシュバック
してしまうと言われますね。

富澤 自分ほちゃんとしよう
とはならないのですか。

先生 子どもにだけはしま
いと思っても、ずっと泣きわめ
いている子どもを見たときに、
どうしていいか分からなくて、
気がついたら叩いていたと。
そこでまたイライラして、
「この子がいるからだ」みた
いな短絡的な話になってしま
う。何とかそれを乗り越えた
いと思っているわけですが。

正しいと思つてらっしゃる人
の場合では。
先生 自分の育て方が正しい
っていう方は、むしろかしいか
もしれないですね。たとえば
お父さんがそうで、お母さん
はそれに追隨しているが、こ
のままじゃいけないと思つて
いる。極端すぎて目をおおう
ばかりのところがあると。で
もそんなこと言ったら、自分
が暴力をふるわれそうで怖い
とか、嫌だといわれる場合で
も、お母さんを少し説得する
と、意外に話が通つて状況が
崩れていくことも。

富澤 ある本で、虐待はいじ
めの延長みたいなところがあ
る、虐待を受けた子どもはま
た虐待をすると読んだことが
あるのですが？

先生 どうしても子どもに手

富澤 そうですね。先生に相
談されるということは、自分
がつていう気持ちがあるんで
すね。反対に自分のやり方が

先生 お母さんには罪悪感が
あるんですね。いけないこと
だけれども、どうしてもやっ
てしまう、つらいっていう気
持ちに焦点を当てる。そうす
ると、自分と父母との関係に
行き着き、自分の責任ではあ
るが少し自分の責任が軽くな
るような。「つらいですよ



「って、その方の気持ちを汲んであげると、どうしたらそれをしないだろうかっていう工夫が始まる。「走って頭を冷やして来ました」となる。そういう工夫を認めてあげることで、うまく回りだすことも。

直接的に罰しても、問題はもぐり込むだけで解決にはならないと思いますね。以前にいじめが問題になったとき、行政への報告件数が減って、いじめは減ったと言われてきたわけですが、実はあまり変化はなくて、現場は分かっているが、厚労省や文科省は減

っている。だから今回のことでは行政の方がびっくりにして、厳罰主義になったというわけです。

解決策でいうと、小学校、中学校くらいは、「コミュニケーション」の授業があってもいいかなと思うんです。子どもたちを見ると、どういうシーンで言葉を出せばいいのかわからない。会話が衰えているように思えますね。

富澤 よく海外の学校でディベート大会とあって、クラスを半分に分けて、ひとつのテーマで賛成、反対を決めて、それぞれがなぜ賛成か、反対かをやりとりしあう。毎回子どもたちに興味深いテーマをかかげてコミュニケーションを深めるという話を耳にしたんですが。

先生 必要だと思えますね。また、お父さんお母さんがコミュニケーションをといて意識があるお子さんと、比較的問題が少ないので対応がつけやすいですね。逆に自分もあまりやってこない、子どもに話しかけることも少ない

ていうと、やっぱりお子さんたちは思春期以降困っちゃうんですね。

虐待のからみでも、お父さんが、「子どもは甘やかしちゃいかん」と厳しいときって、裏返しなんだけど、甘えたことがないんですよ、お父さんも。甘えるってすごい大事で、甘えさせないとダメなんです。だから、「コミュニケーション」の一番大事なところって、甘えが根本にあるかどうかなんです。しっかり甘えさせれば子どもの方から離れていきます。「もうええわ、うるさいな」「お母さん、向こう行って」と。自分が困れば「お母さん、こうなっちゃった」となり、また「ええわ」と。それが、自立していくってことなんですけど。無理に離すってことじゃない、自然に離れていきます。

ところが甘えを知らない人は仕事をしていく中でも、「これやっというて」っていうのができないんです。自分で全部抱えて「ああいいです、自分でやります」ってことになっちゃう。だから甘えるってこ

とが、「コミュニケーション」の中でニュアンスを伝え合うときにどうしても必要になる。「コミュニケーション」が、うまくいかないというのは、その甘えが根本にないってことなんです。

富澤 思春期の子でもちょっと気づいて支えていくということですかね。

先生 たとえば不登校や引きこもりになったというのは、ちょっと子ども返りした状態というので、もう一回やり直したいと思っている。これまでの甘えがうまくいかなかった、集団に折り合えなくて、退却する状態なんですよね。

もう一回成長し直せるチャンスということになりまして、子どもが学校に行かないってだけで、パニックになっちゃうお母さんがいます。

大人もそうなんですけど、わたしたちの所に来るのは、少し子ども返りしている状態なんです。普段シャーンとしている人が「少し変だね」っていうときは、ちょっと子ども返りしている状態なんです。それを理解して支えるっていう

ことなんです。ここでちょっとの間甘えることができればいいかなって。医療機関は、一時的に「ここは支えてくれる」「何を言っても許してもらえらる」という空間になることなんです。親だけ子どもでもあつて、満たされなかった子ども部分っていうのを分かってあげることが大事。

富澤 いじめにあつたりしても受け入れて、親ごさんもちょっとそれに気づいて、まわりもおかしいなと思ったときは、声をかけ合うってことですね。

先生 気弱になっているときに「あんた変だからさ、行つた方がいいよ」じゃなくて「ちょっと疲れてるよね、こういうときって話を聞いてもらうと楽になるよ」という言い方をすれば、頼れるところ、甘えるところがあるって、安心できると思うんです。

富澤 そうですね。いろいろな参考になりました。お忙しいところ本当にありがとうございました。

施設概要&施設だより

春の訪れとともに桜からつつじ、そして新緑がまぶしい季節に移り変わり、公園や庭先では色とりどりの草花が潤いを与えてくれます。

障害分野での定率負担や幼稚園と保育園の一元化の流れが始まるなど、福祉環境は変革するなか、それぞれの施設は十分な使命を果たせるよう取り組みを強化して、利用者一人ひとりのニーズに応えるべく細やかな支援をすすめていきます。



いろいろな理由で家庭養育が困難になった子どもたちを、男女混合縦割りの家庭的なホーム制のもとで、お世話をしています。子どもの最善の利益を基本に、集団がもつ力を最大限に活かしながら、個別の自立支援計画に基づく支援をしていきます。



とくに、子どもの社会的自立とところの基盤は家庭にあることから、家庭支援専門相談員を中心に、親子の絆づくりによる早期家庭復帰と退所後の支援にも力を注ぎます。また、ショートステイ事業などでも地域に貢献していきます。



『あいさつ』

児童養護施設
豊橋若草育成園

● あいさつはバロメーター

本園には、現在、九十名の子どもたちが元気に生活しています。

朝「おはよう」のあいさつから子どもとの関わりが始まります。昨夜寝るのが遅くて起きられない子、寒くて布団から出るのが嫌な子、自ら起きて着替える子もいます。「おはようございます」と元気な子どもの声が返ってこないときがあります。そんなときは親子のあいさつと同じように声をかけあうことが、子どもの体調や子どもの一日の始まりの気分を知るバロメーターとなります。

● いろんな人と出会う機会

初めて会う人には、「こんにちは」とあいさつし、相手との関わりが始まります。表情や声に張りがあると会話も弾みます。また、相手の第一印象も良くなります。反面、あいさつ抜きであれば、人間関係を自ら拒絶していることになり広がりもうまれません。

現代は、昔と違って核家族

が増え、兄弟間の希薄化や、親子の生活スタイルが変化する等、子どもを取り巻く環境が変わりつつあります。園では、多くの子どもが否応なく生活し、いろんな人と出会う機会があります。待つだけでは友だちではできません。自ら声をかける勇気が必要です。

● 気遣い支えあう仲間

九十人もの仲間がともに生活を送っているからこそ、一人ひとりがあいさつを通して、人としてのあたたかみを育みながら、一人がみんなを、みんなが一人を気遣い、支えあう仲間でありたいと思います。そして、育成園つ子の元気がないさつが園内だけでなく、学校でも地域でも響き渡り、子どもたちのパワーがみなさんに元気を与えられたらなと思う今日このごろです。

主任保育士

佐藤 きみ



お母さんといっしょが安心

児童デイサービス事業所
豊橋くすのき学園



今年度より、市内の保育園・幼稚園で上手に集団生活を送れない子どもの先生と親ごさんを対象に、保育園・幼稚園への巡回相談事業を始めました。

障害者自立支援法における児童デイサービス、障害児短期療育事業のつつじ教室とこの巡回相談事業の三つを併せて、発達が気になる子どもと、親ごさん、また保育園・幼稚園への支援機関として、利用者の立場に立ったサービスの提供に努めていきます。

子どもは音楽やリズムに合わせて体を動かしたり、楽器で音を出すことが大好きです。今年度四月から音楽療法上による、月一回約一時間のリトミックの活動時間を新たに設けています。いままでは職員が取り組んでいた活動でしたが、より楽しく、本物の刺激を提供できたらという願いで始めました。大好きなことを信頼できるお母さんとともに楽しむ時間は、子どもの成長にとってかけがえのないことです。

愛着関係を育み、生活習慣を身につける

国が定めた「児童デイサービス」の枠組みは幅広く、施設によっては学童保育や、一時預かりの機能もサービスの対象とされています。しかし本園では当初の願いを原典とし、開園以来発達の気になる子どもとお母さんが毎日いっしょに通い、愛着関係を育みながら社会に必要な基本的な生活習慣を身につけ、生き生きとした発達を促すことを目的に日中約五時間の療育をおこなっています。子どもの発達の原

源に「お母さんありき」です。

つかの間のコーヒープレイク

四月から入園された多くのお母さんはおが子の発達を懸念と比べ思ったり、子育ての悩みや不安を抱えています。そんなお母さんに対し本園は、必要な情報が得られ、悩みを打ち明けられる場となつていきます。また、つかの間のコーヒープレイクで子どもと離れホッとできたり、行事や参観日をきっかけにお父さんに子育ての参加を促すことができ、場でもありたいと思つていきます。

療育を続けてきて実感した重要なポイントは、「低年齢から」「毎日休まず」「お母さんといっしょに」です。基本的な生活習慣の自立を目指しながら、子どももお母さんも毎日笑顔で通園できるよう、今後楽しい活動を取り入れ、母子通園の良さを十分發揮した支援をしていきたいです。

保育士

小笠原 朱美

身近なちぎり寮

知的障害者援護施設(入所更生)
豊橋ちぎり寮

障害者自立支援法のもと、利用者みなさまが安心して暮らせることを第一に、地域生活移行支援をはじめとする各種の個別サービスの提供に努めるなか、昨年は4月につづき7月にグループホームをスタートしました。

また高齢化を含め一人ひとりの状況に応じた利用者主体の支援プログラムの充実や見直しを図り、児童を含めた短期入所事業や積極的な地域交流、福祉教育など総合的な福祉支援を実施いたします。



「太鼓すごかったね〜！」
月におこなわれた節分茶会での利用者さんのひと言です。
ちぎり寮では、数年前から身近に施設を感じていただこうとの趣旨で多目的ホール（通称ふれあいプラザ）を地域の方々に開放し、さまざまな催し物を中心に施設開放事業をおこなっています。今回は、本寮の豆まき・お茶席と、ご近所さんである岩西町の煙火連（手筒花火）の方による太鼓演奏をドッキングして実施しました。

■手筒花火が発端

煙火連の方が参加した雑俎は、本寮のスタッフも参加している岩西町の手筒花火のときの「太鼓の練習する場所がなくてね〜」のひと言が発端。話はトントンの拍子に進み、「それなら、うち（本寮）を使ってよ〜」と、毎月第一・三日曜日に太鼓の練習をおこなうようになりました。そんな縁から行事への協力をお願いし、節分茶会へと至ったわけです。

■施設開放と地域交流

今回の催しは、いままでとは異なり画期的なものともなりました。施設開放には、本寮を『発表の場』として活用するケースと『練習の場』として活用するケースがありますが、今回は両方を満たすケースとなりました。利用者さんにとっても親近感がわくよう、「太鼓に来てくれる人が鬼やうてた〜」とうれしそうに話していました。

■ちぎり寮を活用

『地域の方々と関わる』ことは、地域生活移行を目指す利用者さんにとって最も重要な意義であり、支援するスタッフにとっても実践していかなくてはならない重要な課題です。みなさんのお知り合いに、活動場所や発表の場を探している方がいたらぜひ、「是非、ちぎり寮を活用してください」とのひと言をお願いいたします。

生活支援員

鈴木 広志

潤いのある生活に向けて

知的障害児施設
豊橋ゆたか学園



児童福祉法の改正に伴い、利用契約制度が導入されたことで、今年度はより一層の個別援助を中心とした療育をすすめ、社会参加を目指す等、知的障害児施設としての機能、役割を果たし、質の高い福祉サービスの提供に努めてまいります。

また、短期入所事業、日中一時支援事業を積極的に展開する他、中・高校生の体験学習や大学、専門学校などの実習生を受け入れるなど、地域のニーズにも応えてまいります。



いつも元気でお手伝いが好きなNさんは、二十四歳で本園の年長者です。毎日、掃除・洗濯干し・軽作業に励んでいます。児童施設での限界を感じているとき、岩西授産所さんより声をかけていただき、昨年七月より作業実習に出かけるようになりました。本園とはまったく違う環境の中で作業に取り組み、製品ができる喜びを味わっているようです。その喜びがやる気につながり、掃除・洗濯にますます意欲がでていきます。

また、以前は小さな声だったあいさつも、「行ってまいります！」と「ただいま！」と大きな声になりました。大人として、地域の一員として、作業に出かけ達成感を味わうなど数か月で大きく成長できたように思います。ただ、授産所が休みのときは、少し元気がないように感じます…。

■ 番若いS君は、まだ五歳です。平日はほとんどの子どもが学校に行っているため、成人利用者との関わりしかもてませんでした。しかし、岩西保育園さんのご厚意により、昨年九月より午前

中に職員とともに保育園に通えるようになりました。初めはお客様のように顔がこわばり聞かれたことにも返事ができず、付き添い職員の顔ばかり見ていましたが、いまでは自分から進んで保育園の友だちに話しかける姿が見られます。

また、音楽に全く興味がなかったのが、保育園で習った歌を、体を振りながら得意気に歌っています。ときには楽器を持って歌う姿も見られます。お魚天国を「頭を食べると頭が良くなる」と歌っているときに、職員から「魚を食べるとでしょ？」と言われるとにつこり笑って、歌い直しています。食事場面でも少々苦手だった魚を、「頭がよくなる？」と聞いて食べています。

本園では得ることのできない経験をすることで、二人にとって潤いのある生活になってきたように思います。これも施設のご協力のおかげです。これからの潤いのある生活に向けて、それぞれのニーズに合わせた支援をしていきたいと考えています。

指導員 中野 章

活気あふれる 第三作業班



知的障害者援護施設(通所授産)
岩西授産所



障害者自立支援法による新体制移行へ向けての事業内容の整備と見直しをすすめます。運営の柱は、引き続き所得保障、就労支援、自立支援とし、利用者の利益、意向を最大限重視したケアプランのもとにサービス提供をおこないます。

授産事業については、販路拡大や商品の工夫・充実を手がけ工賃アップを目指します。就労支援については、企業実習、企業内授産により一般就労へ向け積極的にアプローチします。また、日中一時支援事業にて、福祉的就労を通し15歳以上の方の短期的な支援を実施していきます。

このように、本所の機能をフルに活用し、利用される全ての方の自立生活をサポートしていきます。

ゆっくり、じゅくりか ら活気

今回は、みなさんに岩西授産所の第三作業班のようすをご紹介します。第三作業班といえは『窯業班』として知られていますが、昨年の五月から新たにF産業さんの委託作業をおこなうようになり、窯業製品はお馴染みの干支の置物にとどめ、日々委託作業に取り組んでいます。

これまでの雰囲気といえは、『ゆっくり、じゅくりと土と触れ合う』といったところでしょうか。現在ほひと言で表すと『活気』です。作業開始の九時から作業終了の三時二十分まであわただしく、忙しい日々ではありませんが、作業室にはいつも活気が満ちています。F産業さんの委託作業が始まってなによりうれしかったことは、作業班としての活気を取り戻したことでした。

完成時間を 二十分に短縮

活気あふれる作業室の中で

の『ちよっと良い』エピソードをご紹介します。利用者のSさ

んは、トラックで使用する横長4mの旗の四隅に機械でアイレット(金具)を打つ作業をおこなっています。当初、五十枚ひと縮めのアイレット打ちを一時間かけておこなっていた。しかし、F産業さんの工場で働いている方々は、ひと縮めを十、二十分でおこなうと聞き、タイマーを使って少しずつ完成時間を短縮していくことをSさんに提案しました。職員の支援のもと、少しずつ完成時間を短縮していき、いまでは二十分でひと縮めおこなえるようになりました。さらにSさんがアイレット打ち作業をとっても気に入っていることになりました。嬉しいことではありませんか。

Sさんだけではなく、第三作業班のみんなが活き活きして作業をおこなっているという事実が、わたしたちの喜びであり、励みでもあります。今年度も職員一同、利用者のみなさまの支援に邁進させていただきますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

生活支援員

鈴木 匠



肢体不自由児通園施設
豊橋あゆみ学園

大きなパワー

平成18年10月より児童福祉法の改正により、豊橋あゆみ学園は措置制度から利用契約制度へ、大きく変わりました。平成19年度はまさに利用者から施設が信頼される元年とかなければならない年だと考えています。

26年の歴史におごることなく常に利用者のことを第一に考え、障害児・者およびその家族への支援をさせていただき、障害児・者の方が地域の中で安心して生活できるお手伝いをさせていただきます。



豊橋あゆみ学園は母子通園施設です。子どもはお母さんと一緒に本園に登園します。入園当初は、慣れない環境の中での生活に子どももお母さんも多くの不安を感じていることと思います。スタッフとして、子どもとの信頼関係はもちろんのことお母さんとの信頼関係を築くことはとても大切なことです。

母子ともに安心して楽しく通える環境作りを心がけています。最初のうちは、お互いに緊張しあっているお母さん

同士も、慣れるにつれてコミュニケーションをはかり、情報交換や相談、ときに世間話をしながら関係を深めていきます。

いっしょに喜ぶことが励みに

本園に勤務する中で母子通園のよさを感じています。あ

る日、こんなことがありました。それまで、お母さんと手をつないで歩いていた子どもが、お母さんから離れ、ひとりで滑り台に向かって五、六歩歩いたのです。このとき、その

子のお母さんの喜びはもちろん、他の子のお母さんも「今、ひとりで歩けたね!」といっしょに喜んでくれました。いっしょに喜んでもらえることが、お母さんにも子どもにも励みとなります。また、自分の子どもだけでなく、他の子のようすをいっしょに見ていくことで、子ども一人ひとりの発達と、その子に合った関わり方や援助があることに気づいてもらえます。

母子通園であることが、ときにはお母さんにとってたいへんだと感じることもあります。でも、子どものことを考え、目標をもって毎日の療育に取り組んでいただいています。そんなお母さんのがんばりを感じ、私は大きなパワーをいただいています。

本園のスタッフとして、子どもやお母さんがともに元気に楽しい園生活を送っていただけのように今後も療育に精一杯励んでいきたいと思えます。

保育士

花井 千穂

ふれあってつながって未来

保育所
岩西保育園

認定こども園法が昨年10月に施行され、保育所を取り巻く環境が変革する中、本園においては、利用を希望する保育ニーズは増え続けている状況にあります。このため、認定こども園の認定は、しばらくようすを見ることとしました。

保育内容といたしましては、子どもをしっかり育む保育所の基本的な機能を大事にする保育環境を用意するとともに、健やかな成長を願い「年齢別食育目標」を掲げ食育の推進を図ってまいります。さらに、親子の絆、地域社会との関係の重要性に配慮をし、地域における子育て支援施設としての役割を果たすよう努力してまいります。



三月に卒園した子どもにも思いを残しつつ、四月には新しい子どもを迎え平成十九年度がスタートしました。不安と期待の中、親子で手をつないだり、抱っこされて登園する子ども、お母さんと離れることが辛く泣けてしまう子どもなどさまざまです。

園生活に少しずつ慣れてくると、園内には笑顔がいっぱいあふれ、元気のよい歌声が響きわたります。子どもとの信頼関係を築きつつ保育活動が展開されていきます。

親子で給食を味わう

運動会、七夕会などの年間行事や、幼児組の誕生会など、多くの保護者の方々にご参加いただいています。その中で自分の子どもだけでなく、同じクラスの子どもや、地域の方々とのふれあいをもちとともに、童心にかえり親子で活動を楽しんでいただいています。幼児組の誕生会は、親子で給食を味わい成長の喜びをクラスで感じる事ができます。一年を通して、さまざまな人々とふれあい、多くのことを経験していきます。

温かい雰囲気の中で

幼児組では、リズム遊びや、つながり遊び、散歩、製作など、年齢に応じた活動が繰り広げられています。乳児組では、ゆったりとした温かい雰囲気のなかで気持ちよく過ごしています。子どもは、身体にふれられることが大好きです。握手やくすぐりっこを楽しんだり、曲に合わせてダンスをするなどコミュニケーションの天才です。

人生の中で乳幼児時期は大切なときです。保育園での経験が未来を担う子どもにつながるよう、職員一同保育の専門家として研鑽を重ね、日々向上心をもつとともに、地域社会の方々と連携を取りながら、人と人とのふれあいとつながりを大切にしていきます。

「岩西保育園に入れてよかったな」と思っていただけのように温かく心の通った保育園であるよう努力していきたいと思えます。

主任保育士

金子 さよ子



軽費老人ホーム
ケアハウスかなだ

小さな一票、大きな成果

入所者の高齢化がすすむ中、現在の自立生活を一日でも長く続けられるように、住環境の整備とホームヘルプ・デイサービスの活用を図るなど介護予防も含め、豊かで生きがいのある安心した生活の保障に努めます。

ご家族とも常に緊密な連絡、信頼関係を堅持しながら入所者の生活をサポートします。また、自立がむずかしくなった場合の対応がスムーズに図れるよう支援いたします。



「ラウンジや食堂では、『今日のおメニューは何かね？』『今日のはあんまり好きじゃないやー』など、食事についての会話をよく耳にします。

ひと昔前までは好評だった料理もいまでは残食する方が多くなり、お醤油をかける回数も増えるなど、変化がみられるようになりました。毎年おこなわれている嗜好調査では、一度で一年間の食事についてのアンケートをするため、漠然としすぎて回答もしづらく、毎回の結果が返ってきてきました。

気軽にアンケート

そんななか、生活満足度調査、嗜好調査とともにおこなったのが、『今日のお食事はいかがでしたか？』と題したアンケート。一か月間、毎日その日の朝食から夕食まで全メニューを書き、一品、一品についての味付け、硬さ、食べづらさ、温度など、どんな小さなことでも気軽に好きな場所で書いていただけるよう、一階から四階までの各ラウンジにアンケート用紙を用意しました。

はすむ会話と貴重な意見

「朝のご飯は柔らかくておいしかったから、おいしいに一票」昼のグラタンはあまり好きじゃないけど温かかったでおいしかったよなどのうれしい声が聞かれます。レタスが大きくて自分でまたちぎってから食べました。筑前煮のレコンは乱切りより薄めのいちよう切りの方が食べやすいよなど、なにげないことのようにですが、言われてみなければわからないことも数多く聞かれました。また、アンケートを実施することにより調理員と入所者、入所者同士での会話がいつも増えたように思います。

二十七名いれば二十七通りの嗜好や意見があると思います。一人ひとりが満足していただけるよう、その一票をきっかけに、どんなささいなことでもなにかが変更されれば、それは大きな成果へつながっていくように思います。

調理員

末吉 佳代子

楽しみなクラブ活動

知的障害者援護施設(通所更生)
豊橋にしぐち学園

平成18年に導入された障害者自立支援法にともない、利用者の自己選択と自己決定を尊重しての、自己実現への支援が必要になっています。

毎日の健康管理を基本に、日常生活支援および日常関連動作の獲得のため、一人ひとりの能力と発達レベルに合わせた個別支援を重視しています。利用者にとって暮らしやすい地域生活支援を目標に、選ばれる事業所を目指して、日中活動サービスの充実を図ります。



本園では、毎週決まった曜日にクラブ活動を実施しています。火曜日の音楽クラブでは、おもにカラオケをおこない、好きな歌を歌ったり、曲に合わせて鈴や手拍子を打ったり、踊ったりしながら楽しんでいます。ときには、音楽療法を学んでいる方やハーモニカ演奏のボランテニアの方といっしょに歌ったり、打楽器を叩いたりしながら、自然に音楽に親しむことができます。

おいしいそうないは わくわくさせる

水曜日は料理クラブです。自分の物は自分で作る「い」をモットーに、講師の方の手法を見ながら、慣れない手つきでこねたり、混ぜたり、楽しく取り組んでいます。こねるのが大好きなNさんは自分がこねた小麦粉がハンやクレイフになるのを不思議そうに眺め、できあがり

が待ちきれないようです。また料理クラブから漂ってくるおいしいそうないは、参加していない利用者さんや職員の気持ちもわくわくさせてくれます。

木曜日の芸術クラブは落ち着いた雰囲気の中、フールド展

を目標に講師の方とちぎり絵などを楽しんでいます。季節や行事に合わせて、個性あふれる作品は園内に飾られ、それを見ている利用者さんは「今月は桜だね」「きれいだね」など、季節を感じるができます。

また月二回行われるスイミングクラブは利用者さんの個性の力量にあわせ、水中歩行や、ビート板などを利用しながら取り組んでいます。はじめは顔を水につけるのも怖がったHさんは少しずつ水に慣れ、いまでは「せいのー」のかけ声で潜ることができるようになりました。楽しみながら身体を動かして、利用者さんも満足できる時間です。

自分で選び、好きなことができるクラブ活動を楽しく、登園される利用者さんも少なくありません。内容を充実させ、魅力あるクラブ活動をおこなうことで、利用者さんの意欲を引き出し、さらにクラブ活動を盛り上げていくことで、利用者さんの笑顔をこれからもたくさん見たいと思います。

生活支援員

夏目 文史



夜中の電話

乳児院
豊橋ひかり乳児院



家族の病気、親の離婚などさまざまな理由で家庭養育が困難な乳幼児に、明るく温かい環境のもと、専門的な保育と看護サービスを提供し、子ども一人ひとりの健やかな成長と確かな発達を支えます。

月齢・個性に合わせた養育、小グループでの活動を進めるとともに、家庭復帰促進のための家庭支援も相談員を中心に積極的に推進します。

また、ひかりBaby教室、電話相談をはじめとする地域子育て支援も力強く展開していきます。

思いつめたようすが

「フルルルル」

夜中に電話が鳴ります。

「はい、豊橋ひかり乳児院です」

「乳児相談なんですが」

☆

豊橋市の母子手帳には、お知らせとして小冊子が添付され、

その中に乳児相談として豊橋ひかり乳児院が紹介されています。

「まずその電話番号を覚えてください。その電話番号を覚えてください。」

電話のこちら側からでも、やや

思いつめたようなお母さんのようすがうかがえます。何度か

夜中の電話に対応させていた

だきました。相談内容は健康

に関することが多いようです。

お母さんのお話をお聞きして、

「はいねいにお答えします。そして、

「お母さん、がんばってくださいね。だいじょうぶですよ」の言葉

を最後に添えます。少し声が

明るくなり、安心されたお母さ

んの表情が目の前にみえるよ

うです。

「だうごめんばいよわ」

「私自身も幼いわが子を育てているとき、あとから思えばこ

んなささいなこになせう」

思うようなことに悩んだもの

でした。だれかに話をして、「だ

いじょうぶですよ」と返事をもら

えればそれだけで元気にな

りました。

資料を常備して対応

乳児院の乳児相談の最大の

特徴は、他の相談機関と違い、

二十四時間の対応ができるこ

うことです。そのため、お

母さん方から相談されるのであ

ろうと思われる内容について

は想定される資料を常備し、夜

中の電話にも対応しています。

東三河唯一の乳児院である

本院は、子育てにがんばってい

るお母さん方の応援団として、

地域から信頼され、求められる

施設として、これからも努力し

ていきたいと思えます。

保育士

中島 典子

私の好きな言葉

「この道より」



豊橋若草育成園
主任指導員 野口貴章

これは、武者小路実篤詩集(新潮文庫)に収められた詩のうちの一編のタイトルです。全文は、「この道より われを生かす道なし この道を歩く」。たった三行、たった二十字です。私がこの詩に出会ったのは、まだ進む道が見つからない学生の頃でした。

私は、「たまたま」に左右されて生きています。思い起こせば、あの時にこうならなければ、あのことが起きなければ、今ここにはいないなということがたくさんあります。今、私がこの福祉の道を歩いていることは、「たまたま」が積み重なった結果なのです。

人それぞれに道があります。その道は、強い気持ちで自ら切り開いた道もあれば、私のように、「たまたま」できた道を歩いていることもあります。今、私が「たまたま」歩いている福祉の道には、多くの人が歩いています。偶然できた道とはいえ、この道を「われを生かす道」と信じて、この道で出会う人と、今、自分ができる精一杯のおつきあいができたら、と思っています。この道を進むべきか、迷っている方。今だけでも、「この道より」と、信じて、開き直って歩いてみましょうよ。きっといいことがありますよ。

ひとくち字典



脳トレ?!

豊橋ひかり乳児院
近藤紗代

昨年の秋に、CMで見たマリオに魅せられて、勢いでDS Liteというゲーム機を購入しました。職場の先輩に話したら、一時期すごく話題になった脳を鍛えるゲームを貸していただき、試しにおこなってみると70歳という驚愕の脳年齢でした。その日からお借りした『脳トレ』で頭の活性化に励みました。このゲームは教授の指導のもと、簡単な計算や小学校で習うような漢字問題を解いて脳を鍛えるのですが、早さと正確さを求められ意外に難しいのです。日々衰えていく脳を、ゲームの力を借りて何とか維持をしている今日このごろです。

認定子ども園

幼稚園と保育所の良いところを活かしながら、その両方の役割を果たすことができるような新しい仕組みを創ろうという視点から、「就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律」が制定されました。この法律に基づき就学前の教育・保育ニーズに対応する新たな選択肢である「認定子ども園」が、平成18年10月から施行されました。

ありがとうございました

【平成18年7月～19年2月】
（順不同）

●ご寄付

匿名様…………… 3,442,042円
鈴木 潔様……………800,000円
（株）豊瀧様……………500,000円
（株）トムキャット様……………200,000円
（株）三立様……………150,000円
浜富士（株）様……………150,000円
愛知冠婚葬祭互助会様……………100,000円
高橋伸治様……………80,000円
豊橋鉄道労働組合様……………50,000円
山下和子様……………50,000円
林 修平様……………30,000円
匿名様……………21,000円
イトーヨーカドー労働組合豊橋支部様……………19,300円
神田 勅様……………10,000円

（株）奈加彦様……………（豊橋くすのき学園他3施設）
（株）ハカマダ様……………（豊橋にしぐち学園他1施設）
小川水産様……………（豊橋若草育成園他2施設）
千賀商店様……………（全施設）
愛知県地域婦人団体連絡協議会様……………
……………（豊橋ちぎり寮他1施設）
天野様……………（豊橋ゆたか学園他1施設）

【豊橋くすのき学園】

NPO法人イ・エルダー様

【豊橋にしぐち学園】

ジャスコ豊橋南店様

【豊橋若草育成園】

長坂慶一様・豊橋すし組合様

【豊橋ひかり乳児院】

夢屋5様・河合節子様・アイセロ化学様・
豊橋市南消防署様・コンビヴィズ様

【豊橋ちぎり寮】

戸神ガラス様・豊橋中央高校様・松善屋様・
大岩庭園様

【豊橋ゆたか学園】

ラポール様・木下耳鼻科様・清水自転車様・
ダイエーユニオン様・（株）車寿司様・医王寺様

【ケアハウスかなだ】

山村正子様

●ご招待

【豊橋若草育成園】

恵心会様・喫茶「PULLMAN」様・グランドホテル様・中華菜館「蘭華」様・（株）車寿司様・
紀の国や美容室様

●ボランティア

【豊橋くすのき学園】

丸地三起子様・藤原澄子様・黒柳尚美様・上野明枝様・梅田恵子様・佐原礼香様・小栗千佳様・河合みち子様・黒柳久恵様

【豊橋にしぐち学園】

足立久子様・村井幸代様・くすのきの会様・若川京子様・加納祐子様・蔵本愛様・榊原いづみ様・夏目佳那子様・ハーモニカプリンセス様・NHK講座 音楽療法様・雅会 木下翔平様・中野雅康様・豊橋マジッククラブ協会 吉野智昭様

【豊橋若草育成園】

水野清二様・佐藤佳子様・中村直之様・城所明子様・新村悦子様

【豊橋ひかり乳児院】

寺尾允宏様・斎竹けさ様・高須幸様・鈴木茂子様・瀬上あき代様・松井千恵様・沼田俊子様・澤井元美様・澤田美礼様・佐野綾様・太田由美子様・サマリヤ会様・小島尚子様・石川あさみ様

【豊橋ちぎり寮】

つくし様・真如苑様・コロナ美容室様・長坂和世様・鳥居眸様・鈴木房子様・白井ヤス子様・豊橋マリンバの会様・ブリリアント様・大山津美神社煙火連様・桜丘高校吹奏楽部様

【豊橋ゆたか学園】

ベルバラ会様・緑蔭会様・おたまじゃくしの会様・村田安市様・バニー美容室様・山内貞子様・つくし様・野澤栄子様・木下理恵様・慈恵福祉専門学校様

● ボランティア

【岩西授産所】

くすのきの会様・斎竹けさ様・鈴木睦子様・山本咲子様・尾川信子様・齋藤佳子様・中村咲子様・浅岡広幸様・八木節子様・内藤正則様

【ケアハウスかなだ】

琴笠会様・中西艶子様・藤城美雪様・鈴木美智子様

【豊橋あゆみ学園】

平野祐子様・松井紀久美様

この他にも、豊橋善意銀行様や豊橋市社会福祉協議会様を通じ、様々な善意やボランティア活動をしていただきました。ここに厚くお礼申し上げます。

▼人事異動▲

四月一日付で行いました人事異動は次の通りです。(主任級以上)

▼施設長級

豊橋くすのき学園長

石川 温子 (昇格)

(豊橋にしぐち学園 副園長)

豊橋あゆみ学園長

高柳美智明 (異動)

(豊橋くすのき学園長)

豊橋にしぐち学園長

加藤 勝英 (異動)

(事務局次長)

ケアハウスかなだ所長

河合 泉 (異動)

(豊橋にしぐち学園長)

▼副長級

事務局 次長補佐

林 義典 (昇格)

(豊橋ひかり乳児院 事務主任)

豊橋若草育成園 副園長

高橋 裕朗 (昇格)

(豊橋若草育成園 総務事務員)

豊橋ゆたか学園 副園長

波多野豊子 (昇格)

(岩西保育園 主任保育士)

新規採用職員

豊橋ひかり乳児院

事務員

保育士

保育士

保育士

看護師

指導員

指導員

指導員

指導員

保育士

保育士

保育士

生活支援員

生活支援員

生活支援員

生活支援員

生活支援員

生活支援員

生活支援員

生活支援員

生活支援員

生活支援員

生活支援員

生活支援員

生活支援員

生活支援員

生活支援員

生活支援員

生活支援員

生活支援員

生活支援員

生活支援員

生活支援員

生活支援員

生活支援員

生活支援員

▼退職 (三月三十一日付)

豊橋あゆみ学園

施設長

竹田 照明

ケアハウスかなだ

施設長

伊藤 未八

豊橋ゆたか学園

副園長

牧田 慶子

豊橋ちぎり寮

副寮長

柳田 秀也

岩西保育園

副園長

水谷千恵子

事務局長

羽座 由香

豊橋ひかり乳児院

看護師

山下 直美

豊橋ひかり乳児院

看護師

池脇 佳世

豊橋ゆたか学園

指導員

山口 華織

豊橋あゆみ学園

作業療法士

上田 将白

豊橋にしぐち学園

生活支援員

大鷹 利之

あいいいホーム

生活支援員

山本 悦子

生活支援員

生活支援員

編集後記

桜から新緑へと季節は変わり、新たな年度を迎えました。利用者の方々も新しい顔が増え、各施設も活気に満ちているように見えます。

我が家では、日の出が早くなるとともに、犬が早朝より散歩を催促し吠えはじめます。猫は猫で餌の係の私起きるのを待ちきれず、部屋の外の壁で爪研ぎをしだす始末。そんな慌ただしい朝で一日が始まります。

さて、本会では法人広報の一環として昨秋にホームページを開設しました。法人や各施設の現況を具体的に知ることができまますので是非ご覧下さい。また、ご意見等ございましたら遠慮なくお寄せ下さい。因みに本誌も掲載しております。

福祉環境は依然厳しい中にあって、サービスの質を高い次元で保ち、さらに向上していくけるよう、同時に常に利用される方の視点に立った支援ができるよう努めてまいります。みなさまのご指導をよろしくお願いいたします。(田中)

